

F-53

市民参加型のコミュニティバス情報案内板（宮 BAN）の提案

—富士宮市「宮バス」の取り組みを事例として—

Proposed of electronic information board called "Miya-BAN" of community bus by citizens

As a Case Study of the efforts of the "Miya-bus" Fujinomiya

村松賢吾¹, ○折本祐平¹, 宇佐美勇太¹, 松本大地¹, 木村嘉孝¹, 坂口雄太郎¹, 渡部晃平¹, 岸川宏一¹, 柴田 響¹, 安田 峻¹, 才川隆征¹, 小俣壮史¹, 長谷川 究¹, 川口立貴¹, 長田哲平², 藤井敬宏², 小早川 悟²

Kengo Muramatsu¹, *Yuhei Orimoto¹, Yuta Usami¹, Daichi Matsumoto¹, Yoshitaka Kimura¹, Yutaro Sakaguchi¹, Kohei Watanabe¹, Koichi Kishikawa¹, Hibiki Shibata¹, Shun Yasuda¹, Takayuki Saikawa¹, Soshi Omata¹, Kiwamu Hasegawa¹, Ritsuki Kawaguchi¹, Teppei Osada², Takahiro Fujii², Satoru Kobayakawa²

Abstract: We are trying to increase the use of community bus called Miya-bus which is running in Fujinomiya city, of Shizuoka Prefecture. In this proposal, we encourage the people to get on the bus. It is established the systems of "electronic information board by citizens" as an information space for citizens on the bus that will give citizens the opportunity to interact on the bus.

1. はじめに

コミュニティバス^[1]とは、「公共交通の確保」、「交通空白地域の解消」や「路線バスの補完」が目的であり、民間の路線バスでは維持できない地域に運行されるバスである。そのため、運行する自治体、乗車人数、路線数は年々増加傾向にあり、コミュニティバスの社会的なニーズが上がってきている。一方で、コミュニティバスは、自治体がバスの運営費を負担していることから、自治体の財政状況を悪化させる要因ともなっている現状^[2]にある。

静岡県富士宮市では、生活交通の確保を目的に、2008年から市街地を大きく循環するコミュニティバス「宮バス」を運行している。宮バスでは、コスト抑制のために、「バス停オーナー制度」を導入し、市民にバス停の命名権を販売し、利用客だけでなく市民全員で宮バスを支える仕組みをとっている。しかし、宮バスは、中央循環線で利用客数が頭打ちとなり、他の路線では利用客数の低迷に悩まされている。これは、自家用自動車に依存した地方都市の典型的な問題であり、これを改善するためには、より多くの市民に利用してもらうための新たな仕組みや仕掛けが必要である。

そこで交通まちづくり工房では、乗客数を増加につなげるため、魅力あるバスにするためのきっかけづくりとして、市民参加型のバス情報案内板を提案する。

バス情報案内板のコンセプトは、「住民が作り上げるバス情報案内板」とし、従来のバス事業では導入されていない市民が地域密着情報を提供し、かつ共有できるコミュニティづくりに寄与するための地域瓦版の機能を持った「宮 BAN (バン)」を構築した。

これにより、市民のための新たな情報源の発信により、「乗るきっかけ」づくりから、「市民参加」を促す地域活動としての仕掛けとなり、宮バスをもっと身近な公共交通として利用していただけると考える。

なお、宮 BAN の具体化手順は次のとおりである。

- ① 平成 24 年 5 月の富士宮市地域公共交通会議にてコンセプト説明およびデモンストレーションを行い、本格運用に向けた実証実験の許可を得た。
- ② 市議会に報告後、平成 24 年 9 月の市長定例記者会見場にて、交通まちづくり工房として宮 BAN の実証実験の概要について記者発表を行った。

2. 宮 BAN について

(1) 市民参加型のコミュニティバス

一般的なバス車内に装備されているバス情報案内板（車内ディスプレイ）は、行先表示、注意喚起などの表示が主であるが、宮バスの車内ディスプレイでは、沿線の施設案内、地域情報に加えて、市民が撮影した写真や、市民が描いた絵画などの作品展示を行う。

また、このディスプレイは、市民が撮影した動画なども公開することが可能である。

車内ディスプレイに表示するコンテンツは、市やバス運行会社が用意するだけではなく、市民も一体となって作り上げることが特徴である。その結果として、市民もコミュニティバスの運営に参加する「地域密着型コミュニティバス」を実現することが可能となる。

これらの宮バス車内における車内ディスプレイと、市民と行政が車内ディスプレイ内のコンテンツを継続的につくっていく仕組みを総じて宮 BAN という。

1 : 日大理工・学部・交通 2 : 日大理工・教員・交通

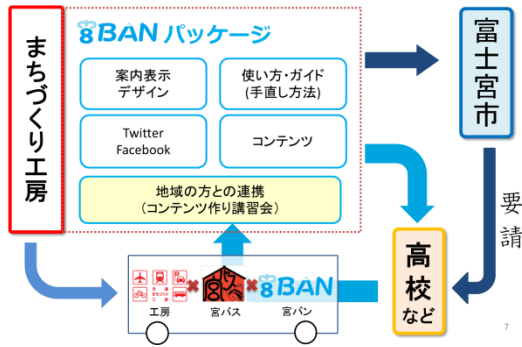


Figure 1. Ties with the region of Miya-BAN

(2) 安価なシステム構成

車内ディスプレイに用いた機材は、パソコン用液晶ディスプレイ、ノートパソコンや市販品を加工したものを使用している。また、これらの電力を必要とする機材は、バスの 24V 電源からコンバーターを介して電源が供給されているため、なるべく消費電力が少ない機材を選定した。この様に、機材を市販品や市販品を加工していることから、機材自体は、バス車内ディスプレイ専用機に比べて非常に安価 (1/5 程度) に導入可能である。また、ディスプレイの取付金具などを変更することで、異なる車体のバスにも導入できる。

(3) コンテンツの表示方法

車内ディスプレイでは、コンテンツの表示には、Microsoft 社の Power Point Viewer (以下 PPViewer) を使っている。PPViewer を使うことで、パワーポイントがそのまま表示できるとともに、音声ファイルや動画などの異なるメディアを一元で扱うことができる。

車内ディスプレイでは、従来型の広告や行先案内を液晶ディスプレイに表示させるとともに音声案内も行っている。音声は、録音したナレーションをパソコンで利用できるファイル形式 (WAV, MP3 など) にし、パワーポイントファイルに埋め込んでいる。

3. 案内情報 (表示させるコンテンツ)

液晶ディスプレイに表示させるコンテンツに含まれる情報には、「行先案内」「沿線施設案内」「注意喚起」「ご当地コンテンツ」がある。またスライドのデザインについては、数名のメンバーで相互に確認し、視認性を確保している。

「行先案内」は、次バス停留所名称、次バス停留所までの所要時間、主要な経路地や系統を示し、乗客がバスに乗車時に必要な情報を示している。

「沿線施設案内」では沿線の施設情報を示し、「注意喚起」(Figure2) では、携帯電話の利用マナー、優先席

案内、踏切通過時の揺れへの注意などについて示している。加えて、宮バスの利用者は高齢者が多いことから、振り込め詐欺を防ぐための注意喚起など、生活に密着した情報も取り入れている。

「ご当地コンテンツ」は、地域住民が住民同士で共有したい情報を表示するものである。地域情報で示す内容は、周辺の店舗や病院・診療所の診療時間などである。また、ご当地コンテンツでは、市民の方々が作成した作品の展示会の場として利用していただけるものとなっている。

このご当地コンテンツは、市民が市民に伝えたい情報を提供・共有することができるものである。したがって、市民から寄せられた作品展示により、自分または知人などが投稿した作品を見るために宮バスを利用するなどの相乗効果も期待することができ、宮バス乗車の新たなきっかけを創出できると考える。

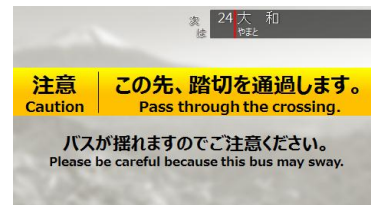


Figure2. Alert at railway crossing pass through

4. おわりに

宮 BAN は、バス乗車時に必要なバス停留所の案内、沿線の施設案内、車内環境向上のための注意喚起をはじめ、地域情報の提供や展示会の場としても活用できる。また、これらのコンテンツを作りあげる仕組みを維持・継続させることで、コミュニティバスに込められた本来の機能である市民と行政が連携した市民参加型の事業へと転換できると考える。

なお、宮 BAN は平成 24 年度 10 月 1 日より一カ月間、富士宮市で実証実験を行い、平成 25 年度からの本格運用を目指している。実証実験中には、アンケート調査を行い、市民が求める情報・コンテンツの調査を行い本格運用に反映させる予定である。

5. 参考文献

[1] 東野隆朗, 日野泰雄, 吉田長裕:「コミュニティバスによる交通サービスの現状と評価の考え方に関する一考察」, 土木学会年次学術講演会講演概要集第 4 部, Vol.56, pp.276-277, 2001
 [2] 国土交通省中部運輸局 HP
https://www.twb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/kassei/k3p/items_h21/bus_network21/material3.pdf